（第3種郵便物認可）　日本教育新聞

各園の保育学び合い、質向上へ

東一の江幼稚園など4園でオンライン研修会

発表通し保育者に自信

昨年から新型コロナウイルスの感染拡大が続き、対面での研修会や公開研究会の実施が制限される中、急速に普及しているのがオンラインによる開催。パソコンやタブレット端末、スマートフォンなどがあれば、園や自宅にいながら研修会や研究会に参加したり、他園の保育者とつながったりできるメリットは大きい。そうした中、東京都と神奈川県の私立幼稚園・こども園4園は本年度から、合同でオンライン研修会を開催し、各園の保育を学び合って自園の保育の質向上につなげる取り組みを始めた。

合同でオンライン研修会を開催しているのは、東京都江戸川区の㈻田澤学園東一の江幼稚園、横浜市の㈻育愛学園　四季の森幼稚園、川崎市の㈻亀ヶ谷学園　宮前幼稚園／宮前おひさまこども園、神奈川県綾瀬市の㈻文伸学園　綾南幼稚園の4園。

各園の園長や副園長、主任らが保育について情報交換するとともに、東一の江幼稚園の保育者が年1回の外部園参観で他の参加園を訪問するなどの相互交流があった。

しかし、昨年から続く新型コロナウイルスの感染拡大で、他園を訪問して保育を学ぶことが難しい状況になった。その一方、オンラインで研修や意見交換をするという取り組みが各地で始まっている。

そうした中、各園の園長や副園長、主任らが話し合い、「オンラインを使い、4園で保育を学び合う機会をつくれるのではないか」と本年度から合同オンライン研修会を開催することを決めた。

研修会は「各園が自園の保育をより良いものにしていく」という狙いで実施している。自園の保育について発表することで、保育者が自信を深めるとともに、他の3園の話を聞いて参考にすることを目指している。

4園とも同じ方向性の保育観を共有するとともに、園長や副園長、主任らが普段から連絡を取り合っているため、事前の日程調整などは、その延長線上で行っている。

そして「継続しなければ意味がない」と、各園の負担にならないように学期に1回程度、各回1時間半の日程で実施することにした。また、預かり保育の定員や時間、担当する保育者の人数など通常の保育終了後の時間も各園によって事情が異なるため、保育者の参加も可能な範囲でとしている。

本年度は、これまで6月23日と今月4日に開催。2回とも、4園が「遊び・保育の事例はもちろん、それぞれの園の持ち味や良さ、もしくは試行錯誤していることや課題点など、『保育』をさまざまな視点から切り取ったもの」を実践発表した後、園ごとに議論し、それを全体で共有してまとめを行った。

第2回の研修会では、綾南幼稚園が「3歳児　子ども理解と保育者の関わり『職員室が居場所だったA君』」、四季の森幼稚園は「4歳児『運動会からスポーツフェスティバルへ』」、東一の江幼稚園が「興味・関心を大切にした関わりと環境『恐竜の化石を集めた3歳児』」、宮前幼稚園が「4歳児『気になる子』の理解と関わりをめぐって」をテーマに実践を発表した。

各園による議論を経て行った全体での共有の時間には、保育者から「自園と共通するところがある」「環境を継続してつくり続ける工夫の仕方をもっと知りたい。自分たちもまねしていきたい取り組み」「事例を聞いて、チーム保育の大切さを再認識した」などの意見が出された。

オンラインで開催された第2回の4園合同研修会の画面

自園の立ち位置分かる

「楽しかった」「見に行きたい」の声

当日の園ごとの議論で出た保育者たちの意見は、園ごとの方法でまとめた上で他の3園に送り、共有している。それは、各園の「保育者間の対話の深まり」「振り返りの方法の改善」「意見を基にした自園の園内研修」などに生かされている。

東一の江幼稚園の田澤里喜園長（玉川大学准教授）によると、参加した保育者の多くは「（他園の実践発表を聞き、自園の保育を振り返ることが）楽しかった」という反応を示した。「コロナが収束したら、各園を見に行きたい」という声も出ているという。他園の実践のいいところを自園の保育に生かそうとするだけでなく、発表した実践について他園から「ここがよかった」と言ってもらえることが、保育者の自信や手応えにもつながったという。

今後、本年度内にもう一度開催することを検討している。来年度以降、新型コロナウイルス感染症が収束し、外部園参観を再開した後も、こうした合同オンライン研修を続けていきたい考えだ。

田澤園長は「他の園の保育を知るのは、自園の立ち位置を分かる上でも大切なこと。オンラインであれば保育者が無理なく他園の先生方の話を聞き、学ぶことができる。実際に見学することと併せて取り組むことで、保育の質を高めることにつながると思う」と話している。

5面に関連記事

連載　心に残る校長講話集
当たり前を問う

次回は12月6日付掲載

子どもたちの遊び

しれません」

でも、「怖いから行きたくない」という声も多数。

ちは、森の中で木片に平仮名や漢字などで何かが書かれた標識を何枚か見クトはどのように生まれるか。それは、ある子の小さな興味・関心や問い後の展開が楽しみです。

次回は12月6日付掲載

保育の質を高める組織マネジメント

学び手の立場に立

ければ、現場では通用しない」と指導に熱が入ります。

前回から登場してもらっている公立保育園の園長先生も「これまでは『あれも、これも』と思っていたかもしれない」と振り返ります。しかし、「学び手の実習生」から見える実習体験を想像したとき、それは時に逆効果ではないかと気付いたのです。限られた時間だからこそ重要な内容を厳選し、学びの質を保障することが大切なのだと。

これまでは、保育士の業務として、清掃や感染症対策などを経験してもらうことを想定していました。しかし、これらの業務は就職してから現感じ、「重要な10項目に絞ってほしい」と指導者に伝えました。指導で重要なのは「伝える側が『何が大事なのか』『伝える量はどの程度が適切なのか』を考えること」「受け止めることができるように、投げるペースを考慮すること」です。

これは実習生の指導だけではなく、園内の人材育成、特に新人職員の育成でも同じではないでしょうか。「学ぶ主体」としての実習生や新人職員側に立ったとき、伝える側が適切な指導の在り方を常に考えなければいけないのです。

次回は12月6日付掲載